



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第78号

発行日
令和元年12月1日

◇ 目 次 ◇

P-2:ミヤジマトンボ生息湿地清掃作業

P-2:入浜池補足調査②

P-3:入浜池定点観察③維持管理作業③

P-5:スカイ歩道整備・清掃作業

P-6:PV 会員交流会 日帰り・萩

P-9:入浜池補足調査③

P-11:樹木名板維持管理作業

P-12:投稿記事

編集後記

カワセミ



カワセミ（若い雄） 飛ぶ宝石と称賛される。ブッポウソウ目 カワセミ科 漢字では翡翠 英名は Common Kingfisher 命名からも、美しさが際だった小鳥のひとつとして世界で愛されていることが分かる。一時減少していたが、最近増えてきたようです。入浜の小魚や水生昆虫を取りに来たようでヒトモトススキに止まるのを確認できました。入浜で見るのは久しぶりでした。

（2019. 9.28 入浜池にて 文：大西 写真：穂井田）

ミヤジマトンボ 生息湿地清掃作業

日 時：8月10日（土） 9:30～12:00

天 候：快晴

行事推進員：檜和田 三戸

参加者：河野 末原 檜和田 前田 松田 森
以上 6 名

連日 35℃を超える猛暑の中、特にミヤジマトンボ生息湿地は日陰なく、砂浜は 40℃以上の中での清掃作業でしたが、ごみは比較적으로少なく、水路も大きな損傷もなく、作業は早めに終了しました。

なお、作業前に末原会長より清掃作業がトンボの生態系に影響を与えないよう注意勧告があり、松田会員からミヤジマトンボの説明をうけ、身近に観察することができました。

当日は、小潮で往復とも主に砂浜を歩いたので早い帰着&解散になりました。



ミヤジマトンボ



集合写真

(文:檜和田 写真:河野)

入浜池補足調査②

日 時：8月24日（土） 9:00～12:00

天 候：曇

場 所：入浜池

行事推進員：大西 小川 松田 穂井田

参加者：大西 小川 小林(勸) 穂井田 松田
横路 以上 6 名



水質調査風景

【水質】小川会員

池の北西側（C、C'、D 地点）は、北側（山）から流れ込む水で広範囲にぬかるみ状となっていた。水温は、中央地点 16.9℃でその南側の A、B 地点で 27.5℃と、約 10℃の差があり、中央地点でも伏流水が出ていたのであろう。

COD は全体的に高く A、中央、D、E 地点が 8 以上、C'地点 2 B、F 地点 4、塩分濃度、中央、C'、D 地点 0.00%、E 地点 0.13%、F 地点 0.1%、PHは A、B、C'地点 6.6、中央 6.4、F 地点 7 でした。

【昆虫】松田会員

トンボは 5 種類、数はそれなりにたくさん見られたがほとんどがシオカラトンボ、アオモンイトトンボ、ウスバキトンボでした。

オオシオカラトンボが縄張りを張っている様子が見られた。オニヤンマが池の端っこに卵を産みに来ていた。

期待をしていたアカトンボは見られなかった。今から多分、増えるのでしょう。

池の中ではメダカ、チチブなどが泳いでいた。蝶はキタキチョウ、アオスジアゲハ、チ

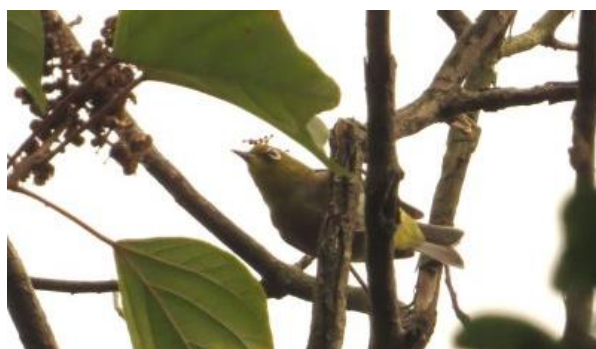
ャバネセセリ（幼虫はカヤツリグサ科、イネ科の植物を食べる）などでした。

【野鳥】大西会員

7月に小鳥が飛び交っていたクマノミズキの実には食べつくされていました。この度は、アカメガシワの実にメジロが多数群がっていました。メジロは、親鳥が頑張って子育てを成功させてくれたに違いない。スズメはなんとまだ子育て中らしくて、餌を咥えて電柱の横穴を出入りしていました。これは2番子？それとも3番子？もう少し頑張ってね。

留鳥に加えて夏鳥4種に出会えたのが嬉しかった。キビタキ成鳥♂の綺麗な黒と黄色の姿にはわくわくしました。

海上の筏ではウミネコが61羽も休息していました。繁殖地から戻ってきたようでした。浜の西側に整備されている水路のそばに、鳥の足跡が3種残っていました。大型サギ（アオサギかダイサギ）、カモ類（たぶんカルガモ）、チドリ類？ではないかと考え、歩いた方向も想像することができました。



メジロ



鳥3種の足跡 入浜干潟

入浜 野鳥定点調査 9:30～11:00

種 名	数	種 名	数
キジバト	3	メジロ	25
カワウ（筏上）	17	エナガ	4
アオサギ（岩場）	1	センダイムシクイ	1
ダイサギ（冬羽・岩場）	2	コサメビタキ	1
ウミネコ（筏上）	61	キビタキ	♂1
ミサゴ	3	オオルリ（♀又は幼鳥）	1
トビ	7	スズメ	4
ハシブトガラス	2	ハクセキレイ	1
ヤマガラ	4	セグロセキレイ	1
シジュウカラ	1	ホオジロ	♂1
ヒヨドリ	9	計 21 種	

宮島における区分については、平成11年宮島町発行「宮島の野鳥」を参考にしました。

留鳥

冬鳥

旅鳥

夏鳥

入浜池定点観察③ 維持管理作業③

日 時：9月28日（土） 9:00～14:30

天 候：曇り

場 所：入浜池

行事推進員：嶋谷 森 大西 小川 松田 穂井田

参加者：大西 小川 恩田 黒木 河野 小林（勲）

嶋谷 末原 穂井田 森 山本（章）

横路 以上 12 名



集合写真（河野）

【作業部会】末原会員

海岸に打ち上げられた発泡スチロールを10個片付ける。後は、いつものゴミを12袋集める。今回の台風でかなりのゴミが山の方に飛ばされて山積している。



海水逆流と清掃 (河野)

【植物】小林会員

ダンドボロギクの種が風に乗ってよく飛んでいる。ハマゴウの実やヒトモトススキの実がたくさん見られる。カンコノキ小さな花と実をたくさんつけている。キミノシロダモ(?)も少し黄色が目立ちだしました。

【水質】小林会員

水温は全体的に高めでした。27℃前後、PHは6.1から6.8。塩分濃度は海水が入ったのだろうA地点0.28%、B地点0.75%、中央0.15%、F地点1.18%、海水は2.73%、CODはA、F地点8以上。B、中央6、D、E地点4でした。



水質測定 (河野)

河野会員からF地点で秒速15cmの逆流(池の方に入っていく方向)を計測する。逆流は30分もなかったのではないかと報告がありました。

【昆虫】小川会員

砂浜にいるヤマトマダラバッタではなく普通のマダラバッタが見られた。トンボはアオモンイトトンボ、リスアカネ、オニヤンマ、それとシオカラトンボ、ギンヤンマが産卵をしているのが確認された。

【野鳥】大西会員

池の周りで飛翔する青い小鳥の姿が、一番に目に入りました。綺麗なカワセミでした。久しぶりに会うことができました。スズメは池の周りで群れて採餌していました。先月にはまだ子育て中でしたから、ひょっとしていくつかのファミリーが集っていたのかもしれませんが。

今回の調査で筆頭にあげたいのは、ハチクマです。2羽が弥山の南で旋回しながら上昇する様子を観察できました。先日(9月21日)の「タカの渡り観察会」が雨天中止となり、観察できなかったタカを、この定例の入浜活動中に、参加者の皆で、空を見上げながら観察できるなんて、とてもラッキーなことでした。



野鳥観察 (河野)

入浜 野鳥定点調査 9:30～11:00

種 名	数	種 名	数
キジバト	2	コゲラ (地鳴き)	1
カワウ (飛翔・海上)	2	ハシブトガラス	2
アオサギ (飛翔・海上)	1	シジュウカラ	4
ダイサギ (冬羽・岩場)	1	ヒヨドリ	39
ウミネコ (筏上)	3	メジロ	7
ミサゴ	1	スズメ	25
トビ	15	セグロセキレイ	2
ハチクマ (旋回)	2	カワラヒワ	4
カワセミ	♂ 1		
アオゲラ (地鳴き)	1	計 18 種	



カワセミ (穂井田)



ハチクマ♀淡色型 入浜上空 (穂井田)

ハチクマ♀ 淡色型, 換羽中
入浜上空 (穂井田)

メジロ (穂井田)

スカイ歩道整備・清掃作業

日 時 : 10 月 12 日 (土) 9:00～12:00

場 所 : 包ヶ浦自然歩道の紅葉谷入り口より
数分奥に入った辺り
(昨年の作業場所付近)

天 候 : 晴天 (台風 19 号の強風域内)

行事推進員 : 大林 (JR 運休で欠席) 森

参加者 : 岩崎 河野 末原 兎谷 森 横路
以上 6 名

午前中の降水確率は 20% で、実施条件は満たしていましたが、台風 19 号の強風域の中にあり、行事推進員としては、ヤキモキしていました。末原会長から JR は運休、車で宮島口に向かっていると電話があり、急いで宮島口駅に向かった。途中、海が見える道からは、フェリーが行き交うのが見え、航行は OK。JR 宮島口駅に着くと、太田川鉄橋の風で 6 時半から運休、再開の見通し立たないとのこと。今日は中止かなと思って棧橋で末原会長を待

っていると一人、二人と会員の方がこられて総勢 5 名に。末原会長と皆さんで実施の可否を相談していた時に、お一人が宮島栈橋にいと連絡があり、6 人で実施することに決めました。

ロープウェーは強風で運休していましたが、紅葉谷は気持ち良い爽やかなそよ風で作業には持って来いの条件でした。まずは、昨年整備した箇所側の溝に溜まった 1 年分の土と枯れ枝・枯れ葉を取り除き、その後、その上側と下側の溝を整備しました。昨年整備した場所は比較的楽に除去作業が終えられましたが、その上側と下側の溝は、溝の中に根が張り廻り、根を切りながらの汗だくの悪戦苦闘でした。皆さんの性格がそうさせるのか、側溝のセメントが見えるまで止めようとしないうしない面々。すごい！



(文 : 森 写真 : 河野)



側溝は場所によっては詰まりがひどく、道に水があふれてえぐられており、毎年の継続した整備が必要と思われます。

作業を終えて 12 時過ぎに紅葉谷のロープウェーのバス停前で昼食を取り、帰途につきました。モミジはまだほとんど色づいておらず、緑の林。途中、人通りの多い商店街を通り、新しく出来た「おもてなしトイレ」の建物に立ち寄りしました。一階には若いコンシェルジュ（案内の人）がおられ、流暢な英語で案内されておりました。二階は綺麗なテーブルと椅子があり、くつろげる空間になっておりました。

参加された皆様、大変お疲れ様でした。

宮島 PV 会員交流会 日帰り・萩

日 時 10 月 19 日 (土) 8:00~18:00

天 候 : 曇り

場 所 : 山口県萩市

行事推進員 : 二神 松尾

参加者 : 麻生 岩崎 大林 小川 金山 黒木

小林 (颯) 佐藤 佐渡 末原 中道 平田

二神 舛田 村上 横路 以上 16 名

おいでませ萩まるごと博物館へ！！
～維新のふるさとで歴史・文化・自然学ぼう～

今年度の交流研修会は、萩を訪れるとともに、2018 年 3 月まで環境省 AR として活躍された川原康寛さんの勤務先である「萩博物館」を訪ねました。

小雨の中、8 時ちょうどに宮島口をマイクロバス出発。山陽自動車道を通って、予定の 10 時半に萩博物館へ到着。

萩博物館

萩は、まちじゅう (町中) を博物館とうたっており「萩博物館」はその中核施設で、

2004 年に開館。旧萩城の三の丸にあった武家屋敷跡に立ち、萩の歴史・文化・自然など幅広く展示しています。また運営は「NPO 萩まちじゅう博物館」が行っておられるとのこと。

川原さんは休日にもかかわらずお越しください、入口で合流。お元気そうな顔を拝見し、早速一緒に記念撮影しました。



館内では、ボランティアの繁澤さんに、企画展示（鉄道）、萩学（萩の大地・火山、産物（夏みかん）、長州藩の歴史）などのコーナーを案内していただきました。



館内にはそのほかに「いきもの発見ギャラリー」の部屋があり、萩の鳥・昆虫・魚・貝など 2 万点以上の標本を保有しているとのこと。萩の博物学者・田中市郎氏が収集し、萩の博物館の礎となった標本も並んでいるそうです。なお、川原さんはこの部屋関係の仕事をしているとのこと。



またシェリング・バーと言って、貝殻を持ち帰ってもよいコーナーがあり、大人も懐かしさに、つい持ち帰ってしまいました。

博物館では、ちょうどその日、「NPO 萩まちじゅう博物館」の 15 周年記念イベントとして、展示や案内をたくさん行っていました。

HP によると、同団体は、2004 年に設立、萩の歴史や文化、自然を守り、活用するボランティア活動事業としても、
◇まち博おたから情報班 ◇外国語班 ◇民話語り部班 ◇研修班 ◇花と緑の推進班
◇自然おたから班の 6 班

●学芸員サポート活動として

◇歴史班 ◇天文班 ◇あい班 ◇古写真班
◇レコード班 ◇民具班の 6 班
など、多くの班があり、その日も多くの班が熱心に案内などの活動を行っておられました。

昼食は博物館内のレストランで地産地消の名物「萩三旬井」を味わいました。

明倫学舎

昼食後、城下町エリアを 20 分ほど歩いて、萩・明倫学舎へ。ここは 1849 年に建設され、長州藩校の明倫館として、その後も最近まで小学校として使用されたものを、2016 年に、萩の新たな観光起点ミュージアムとしてオープン。

2 号館では、「NPO 萩明倫学舎」の副理事でもあるボランティアの吹上さんが、天

文、測量などの科学技術史について豊富な知識でご案内くださいました。



また 1 号館では懐かしの木造校舎のほか、ジオパーク・ビジターセンター、レストランや土産物ショップもあり、大変にぎわっていました。

藩校の規模の大きさに驚き、幕末に萩から人材を輩出したのは、この教育熱心さによるものと思いました。

萩・明倫学舎を出たところで、川原さんの一層のご活躍をお祈りしながらお別れ。

笠山

市内から突き出た半島にある笠山一帯は阿武火山群で活火山。112m の山頂付近では、火山口と日本海の素晴らしい眺望を見ることができます。



人里離れたこの展望台にも、ボランティアの女性が 2 名おられ、私たちの質問に熱心に答えてくれました。



帰りのバスの中で、参加者からひと言ずつ、感想発表しました。

- ・ 萩に行ったことはあったが、こんなにしっかりと知ることはなかった。やはり研修会で行くと、多くのことを学べてよい。
- ・ 3 施設それぞれで、たくさんのボランティアさんが熱心に活躍し、非常にボランティアが盛んと思った。
- ・ 何より、ボランティアさんが笑顔で親切に対応してくれたのが印象的。萩のことを知ってもらいたいという「萩愛」にあふれていた。
- ・ また来年も交流会をしたい。

私がもう一つ感心したのは、配布資料が、きめ細かく豊富だったこと。例えば博物館では、萩出身の人物一人ひとりについて、功績を記したパンフが 100 人分くらいあり、市民の「萩愛」を感じました。宮島にも、もう少し来島者用の配布資料があってもいいかなと思いました。

ご案内いただいた川原さん、ボランティアの方々、お世話いただいた舛田会員、大変ありがとうございました！

(文：二神 写真：二神 麻生)

日帰り・萩

PV会員交流会
令和元年 10 月 19 日

萩行きや霧立ちのぼる高速道

木造の萩藩校や秋気満つ

瓦塀にどっかと座り青蜜柑

笠山のはるか見島の霧襖

萩焼の白爽やかに店の軒

無人市の柚子の実五つ家つとに

黒木 隆信



植物は、シロダモとキミノシロダモがきれいに色づいていました。種類が確認できた昆虫はつぎのとおりです。

【蝶】

キタキチョウ、テングチョウ、ヤマトシジミ、チャバネセセリ、アカタテハ

【トンボ】

アオモンイトトンボ、ネキトンボ、リスアカネ、アキアカネ、ギンヤンマ
池の真ん中付近でアカトンボが連結産卵していました。



キミノシロダモ



シロダモ

入浜池補足調査③

日 時：10 月 26 日（土） 9:00～14:30

天 候：曇り

場 所：入浜池

行事推進員：大西 小川 松田 横路

参加者：大西 小川 横路 以上 3 名

【植物・昆虫】小川会員

26 日は午前中お天気が良く、11 時頃には蝶やトンボが活発に飛んでいました。参加者 3 名のため、水質調査の記録をしながらの生き物観察は結構大変で、写真もうまく撮れませんでした。印象に残ったのは、ヒトモトススキの株元に掘られた直径 15cm 深さ 20cm 位の穴を 3 か所も見つかったことです。イノシシの仕業でしょうか。そのうち根元からひっくり返され、枯れてしまう・・・ヒトモトススキが減少した原因の一つかもしれません。

【水質】横路会員

当日の天候が時々雨で、空模様を気にしながらの測定開始となった。

池の水位は、B点 -8.5 cm、F点 -15.5 cmで水は池から海方向へ流れが有り。（排水溝の幅 90 cm、深さ 7 cm、流れの速さ 1m/10 秒）

塩分濃度は、C' 0.01%、A・B・中央 0.08～0.19%、D・E・F 0.22～0.37%、海水 2.66%であった。山側の D 点で僅かな湧水が認められた。海口面は開いている。測定の近時点で海水の流入が有ったと思われる。（前日、広島港で 19 時 47 分の満潮高 356 cm。）水温は、測定の時間に約 1 時間の経過が有るが 19.1℃～22.6℃、海水 21.7℃、山水 17.3℃。

COD は、山側の C' 点 2、A・B・E・F 点 4～7、中央・D 点は付近にイノシシや鹿の足跡が認められ、8 以上となった。

池の環境としては、山側の陸地化が進んでいると思われるが、池の中の葦の株の根上がり状況には、近年あまり変化が無く絶滅せずに生育していると思われる。

PH は、A～F 点で 4.6～6.2、海水で 7.4、水道水で 6.0 と、全体的に 1.0 近く低い値となり、測定器の不調が視られる。

山水の流量は、前回と同程度と思われるものの、水路の荒れで測定管の設置が難しく測定が出来なかった。



「葦」の 4 株（写真）B 点から F 点方向

【野鳥】大西会員

前回に続きカワセミを見ることができました。トビの群れの中に見られたタカは翼が白く透きとおっていてとても綺麗だった。ツミと思うが、断定はできなかった。また、このツミ又はハイタカも冬鳥として定着するのか旅の途中なのか不明です。

待ち望んでいたジョウビタキが、ヒッヒッ、カッカッと地鳴きしながら尾を振る姿を見せてくれた。移動して来て間がないのかあの狭い場所で 4 羽を確認できた。ジョウビタキは冬鳥の中では特に縄張りを主張する小鳥です。ヒヨドリは、秋の短距離の渡りをしていました。ムシクイ類の写真を撮ったが、轉らないこの時期では同定が困難なため、現在照会中です。

入浜 野鳥定点調査 9:30～12:00

種 名	数	種 名	数
アオサギ (飛翔・海上)	1	エナガ	20
ウミネコ (飛翔・海上)	2	センダイムシクイ (囀り)	1
ミサゴ	3	ジョウビタキ	♂4
トビ	11	サメビタキ	1
カワセミ	♂1	スズメ	4
アオゲラ	1	ハクセキレイ	1
コゲラ	1	セグロセキレイ	1
ハシボソガラス	3	カワラヒワ	3
ハシブトガラス	1	ホオジロ	♂1
ヤマガラ	2	ツミ or ハイタカ	1
シジュウカラ	2	ムシクイ類 (写真で照会中)	1
ヒヨドリ	52	ソウシチョウ (外来種・囀り)	1
メジロ	10		
ウグイス	2	計 26 種	



ハクセキレイ
補修してくださっている水路にて



ジョウビタキ 今季初認

の予備を入れたバケツを持つ者、手の届かない所や斜面で使う脚立を運ぶ者、観光客や車の接近に気配りする者。共同作業で移動して行きました。空は素晴らしい秋晴れ、観光客とすれ違う楽しい雰囲気も味わうことが出来ました。正午前にコース中間地点の茶屋前で合流し、解散しました。

今回、①新規取付け、予備と交換、取付け位置変更などが合計 16 枚

②枯れ、撤去などのため今回リストから名称を「削除」としたものが 5 本

③今回リストに「追加」としたものが 2 本でした。



集合写真

樹木名板維持管理作業

日 時：11 月 2 日（土） 9:00～12:00

天 候：快晴

場 所：うぐいす歩道～もみじ歩道～あせび歩道

行事推進員：河野 佐藤

参加者：麻生 岩崎 大西 小川 川崎 河野

小林(勗) 小林(み) 佐藤 末原

野呂田 前田 舩田 村上 森 横路

以上 16 名

環境省：山崎自然保護官



あせび歩道作業風景



あせび歩道作業風景

宮島栈橋前(支所前藤棚)に集合・点呼の後、栈橋前からうぐいす歩道へ進む班と大元公園からあせび歩道へ進む班との 2 班に分れて約 360 本の樹木名板の維持管理作業に出發しました。

位置番号図と樹木名称表を抱え記録もこなすナビゲータ役、予備名板の詰まった背負子をせおう者、白い名板を素早く見つけて知らせる者、名板汚れ拭取り用の布巾、ペンチ・ハンマー・ボール等の調整用道具と釘や針金



うぐいす歩道作業風景

(文 : 前田 写真 : 末原 河野)

***** 投稿 *****

ハチクマの渡り 大西会員

タカの渡り観察会 2019 年 9 月 21 日 (土)
は雨天予報のため中止になりました。この観
察会については、中止になったり、予想日が
当たらずにハチクマの渡りを観察できない
年が続いています。申し訳ない限りです。
雨女と言われている私の責任かも？

しかし、9 月中旬から 10 月初旬にかけて、
ハチクマは越冬地を目指して確実に渡ってい
ます。担当としては、数日間の観察会を企画
できれば楽しんでもらえる日があるはずだ
と思います。来期を念頭に提案させていただ
きたいです・・・・・・・・

担当は、下見を兼ねた観察を毎年数回行っ
ています。実は、今年の渡り観察は素晴らし
い当たり年でした。100 羽+や 30 羽+20 羽
+10+などのタカ柱が観察できました。特に 9
月 26 日午後は、たくさんの羽数のハチクマ
のタカ柱を 10 回以上観察できました。会員
の皆様感動の体験をしていただきたいたと、
強く思いました。
その時の柱の写真です。高いため黒い点に見
えますが雰囲気を楽しんでくだされば幸いで
す。



(文・写真 : 大西)

◇ 編集後記 ◇

みせん 78 号は 2 回の活動が中止になり、
私が担当してから最も多くなりました。

10/12 の朝、活動に参加のため JR 新白島駅
に行くと台風 19 号の強風のため運転見合
わせで不参加にしましたが、この日は少数精鋭
の熱血漢が宮島にわたり活動しました。凄い
です。ラグビーワールドカップ、初めて観戦
しましたが興奮・感動でした。(麻生)

**瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会**

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6 番 30 号
広島合同庁舎 3 号館 1 階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455